明治二十二年九月十七日刊行
明治二十二年九月二十日出版

（無定價）

婦人衛生會雜誌

第八號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌

第八號

目次

海浴の說　足立寬君

まどのお噺し　色川圀士君

塵埃の說　坪井次郎君

婦人の衣服に就て　石黒忠悳君

本會錄事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第八號
明治二十二年九月廿日發兌

○海浴之説（七月臨時會講演）

足立　寛　述　大澤　豊　筆記

私は誠に何にも存じません、又饒舌ります事も下手で御座いますが、此間から御頼みが御座いまして止を得ず出ましたが益有る演説をすると云ふ事は迚も出來ない、只商賣で御座いますから「海浴之説」と云ふ御咄しを致します。

能く人が海水浴と云ふ事を申しますが、此頃は大變流行ります、大磯にもあり小田原にも伊豆にも駿河にも房州にも海水浴が有ります、其外にもまだ彼方此方諸所に海水浴と云ふ者が有る。一昨年中私も海水浴に參り、大變海水浴に就て惡るい事を見て參りました、サウ云ふと大變アラ許り云ふ樣ですが、アラを言はなければ能い事が解かりませんから申します。往つて見て居りますと、此んな小さな赤兒を海の中の、深い所に連れて往つて御手遊にして居る、小さひ誠に柔しひ身躰を海の波に揉れて居ります、誠に可憐想な事をすると感じたが夫れが大變惡るいです。夫れからお婆嫗さんや老翁さんを海に入れて居ります。凡べて此人間は何人も總じて極く始まりは極く柔弱い、又ソレが段々成長して老人に成ると又弱くなる丁度松の木の樣な者で御座います。始め芽生の時は至つて軟弱い者ですが段々大きくなつて大木となる、大木となると又脆くなる、若し其芽生の人間だの大木の樣な御年寄だのを暴い波の中に入れては大變で御座います。夫れで私は兼ねて惡口吐きの評判の男で御座いますから今日も其の惡口の御咄しを仕樣と思ひます

總べて物と云ふ者は名からして正さなければならん元來海に這入つて湯治するのを海水浴と云ふのは違

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ひます。何爲大層學者方が被居るのに御氣が付かぬか、私見た樣な者には分りませんが、那の海に這入るのは海浴と云ふ者で是れは決して西洋から持つて來た者では御座いませんよ、夫れから海水浴海鹽浴等が御座います海浴とは、獨逸の言葉で「セーバット」海に浴することと即ち海浴と云ふ事で御座います。日本の在の人が潮湯治と申します、海の中で湯治するからの事です、海水浴と云ふのは海の水を汲んで來てお風呂に沸し、或は冷たいまゝで風呂桶に入れて、這入りますのを申すのです。夫れから最う一つは、只の湯へ通例の鹽を入れたのを海鹽浴或は只鹽浴とも申します、則ち鹽の這入ッた御湯で御座います。是れは皆な効能が違ひて畢竟するに一つ物では御座いません、だからチャンと區別して置きませんと、大に間違ひを生じまする。夫れで海の水と云ふ者は何う云ふ者かと云ふと是れは井戸の水とは違ひまして、色々の物を含んで居りますけれ共、其の海の中に有りまする成分(這入て居る品)は山から涌き出す鹽泉と云ふがありまして其鹽泉と云ふのは鹽水の出る泉、鹽の温泉で御座います、然して此の山から涌き出す鹽泉の水と海の水とは元と同じ物で御座います。成分は些とは違ひますけれ共、先づ大概同じです。夫れは何爲同じいかと云ふと元此鹽泉と云ふ者は、極くの昔し地球の上が皆海であつた時、其海は何万年經つたか知れませんが、追々水分が蒸發して土地が出來て來る、而して乾きたるカスゲ山の間に這入つて居る、夫れが即ち石鹽と云ふ者である、其石鹽が再び水に溶けてサウして山のスキ間から出る夫れが即ち鹽泉で山にある鹽の泉で御座います、夫れで源泉の水ハ一つで御座いますから海の水も山の水も成分ハ同じ事て御座います。然らバ山の鹽水を冷たくして這入つたのも、海に這入つて海浴するの

も同じてあければならん道理である、然るに當り前の鹽湯若くは海水浴又山から涌き出す鹽泉に浴するよりは一番海浴の方が宜しいので御座います。又賞める樣ですが、其よろしいと云ふ譯は何で有りませう、其海浴を致しまする爲方が他と違ひます。當り前の湯とは其湯に這入り方も違ひまする夫からして又土地が違ひます、夫れですから海水を一度東京迄持つて來て、自宅に取りよせた海水では何にも成りません。何爲何にも成らないかと云ふと海水あれば則ち其風土も異り、氣候が違ひますし又暮し方が違う、御同樣に宅にのみ居りますと何か家の用が有りまする「何うも昨夕は雨が洩りましたが屋根屋が頼みたい」と云へば頼まなければあらん、御米が無くなつた杯とも云ふかも知れません。斯く色々の事を心配して始終をど〳〵して居る、けれ共旅店あれば屋根が洩ても屋根屋に用の有る氣遣ひもなし米がなくなつても平氣です夫れだから大變氣樂で總べての今日の事に就て苦勞と云ふ者は丸るで無い、至つて安心して居る、夫れ故海浴の海水浴或は鹽湯と云ふ者と違うのは全く其處にある。

先づ今日は海浴の御斷して有りますからして外の事は皆な止めて仕舞つて、先づ海浴の効に付き大体を申ますれば二通り有ります、第一海水の成分の効と夫れからして温度の差即ち通常の空氣よりは海の水の方が冷たいとか温かいとか云ふ樣な温度が違う、又浪の動搖海の中には丁度能い加減の風が吹く其風の動搖、夫れからして浴客（湯に這入る人）の身体の運動。夫れから第二が海氣、海の氣で御座います、則ち海の風です海の風と云ふ者は東京の風や山の風とは違ひます何處だか知れない樣な遠い國から遣つて來る、其來る内に風の中にある腐つた者も病毒も皆な無くなつて仕舞う其仔細は病毒其外空氣

にましりたる物ハ風より目方が重い故に段々吹き來る中に、天笠邊より吹く風が漸次に日本の海の南風となつて來る時分には、大變に奇麗になつて仕舞う、だに依つて山の風だの此東京の市の風などとは大變に違ひます。夫れから氣候に從つて海の邊と云ふ者ハ好い工合で寒暖の變も尠ない、冬は暖かいし夏は涼しいと云ふ事は海の水は熱國より暖まりて其儘漸次に流れ來つて冬の頃になりて岸邊に漂ふ、故に外氣に比して冬も餘程暖かい加之空氣も之に引連れて暖き風を吹送るといふ樣にあり、夏は又之れと反對で寒地より來るから其割合に冷たく且つ涼しい、此の如く世間の寒暖には伴はれずして結句適宜に寒暖の候を作りますから、概して海邊ハ氣候が平等であります。扨て其海水中の成分を最う一遍御咄し致します、是れハ地方に依り又氣候に依つて海の水の成分に幾分かづゝの違ひを生ずる、言ひかゆれは水の性質に違ひが起る、其外又水の増したる時或は土地と時とに依ても違ひます、例へば大雨の後若くは山の手より雪溶けの持て來た水抔か混りますと餘程成分が異り升、又春先や夏の始まりハ一體に海水に鹽氣が淡い、是れは山の方より雨水抔の流れ込む爲めに從て渚沙の水も鹽氣が淡くなるのです。夫れからして海の水又海上の空氣が温かいと冷たいとに依つて違ひます、風が暖かい時には水が蒸發する、風が寒むければ自ら水の蒸發が少なう御座いますから鹽氣が淡いと濃との變を致します。先づソンナ事に依つて違ひますが、併し其成分の重なる物を申しまするなれば（此分量の事は私は少しは存じて居りますが多くは存じませんから申しませんが）則ち食鹽、コロールマクチシウム、コロールカリウム、硫酸マクチシヤ、硫酸石灰、炭酸石灰、炭酸マクチシア、炭酸亞酸化鐵、炭酸亞酸化滿俺、燐酸石灰、ブロー

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ム、ヨチーム抱合物、硅土、有機物、炭酸瓦斯、アンモニア、先づ是れだけで御座います、是れだけを多含んで居る者が海の水で御座います。然して此海の水と云ふ者は少し臭さう御座います、ヘンに磯臭ひと云ふて妙な臭ひが致しまするが成分中にソンナ臭ひのする者は少しも無い、彼の臭ひまする者に就ては、今でも學者一般に海の水の中にある「ヨチーム」と「ブローム」が臭うのだと申しますが「ヨチーム」は少し斗り他の物と結び付いて這入ッて居る、「ブローム」も矢張他物と結び付いて這入ッて居る、又這入つて居らん所も御座いますで、學者の申しますのは蓋し虚言で御座います、學者は時とすると中々虚言を申しますが、幸に私は學者で無いから正眞かも知れません。ソコデ其臭ひのするのは海の中に細い草と小さな虫とある、夫れに小さな草と申しても昆布や荒和布の樣な者では無い、則ち今も申した細微なる有機物である、又小さな顯微鏡で見なければ見へない樣な虫が居ります、其虫の居る事の一番能く分るのは夜分で、海邊に居ると波打際でピカ〳〵と光ッて居ります、また蒸氣船で遠州灘杯を通りますると波の中で螢の樣に光つて居る、是れは皆虫が水の中に在る證據でチットして居る時は光りませんが虫の動く時だけが光るのです、故に其虫の身躰から光りを放つ爲めに海邊は一面に奇麗に能く光る事がある。之れに因つて海の水を手に取ッて嗅ひで見れば少し變な臭ひがする、夫れから其虫が死ねばプン〳〵と臭ひがする、則ち腐つて來るに相違ない、海の水の磯臭ひと云ふは此の譯であります。夫れで其虫は海の中に居るから甚だ穢なくつて海に這入るも忌らしい樣に思いますが海に這入るとチク〳〵虫にかぶれる其かぶれるのが大變な藥りになるので、身躰がチク〳〵して來るから皮膚の働きが一度に付いて來る、

夫れだから其虫の居るのが大變海水の効能を助けまするので御坐います。デ御坐いますから魯西亞の方などでは、海浴でない、海水を風呂に沸します時に水母を細かに切ざんで湯の中に入れます位ださうです。以上は先づ成分に就ての御咄し。

夫れからして此海浴を行なうので氣を附けねばならんのは、海の水が暖かいとか空氣が暖かいとか云ふ樣に、海の水と空氣の溫度で御坐います、海の水が餘り冷たう御坐いますると這入りました時に、或は又後に風を冒ます樣な事が有りますから、成るたけ海の水と空氣の溫度に違ひの無い時が宜しう御坐います。總べて海の水と云ふ者は夏は日が近く爲りて參つて、海上には真直に日が射す樣に爲る、さう爲ると海の水が沸へて來る、サレば海浴に御出でにならうと思召あらば、土用中に海に日が射して水が温かになつた時分、則ち夏の末秋の始めが宜しう御坐います。土用中に能く日が照して海水を温くし、さうして少し秋風の立つた時分には空氣と海の水が温度に格段の違ひが無いから宜しいのです、夫れ故八月の末から十月の始りが海浴に參りますのに丁度能い所です。人の皆な歸つた時分に、ソット御出になれば旅宿も開いて居りますし水も温かになつて居ります。

夫れからして海の波にも少つと氣を付けねばなりません、波が余り暴らふ御坐いまするど云ふと、迚ても中に這入ッて居るのに堪へません危ない許ては御座いません身躰に障ります、と云つて余まり盥に這入つてポチャ〳〵して居る樣なのも往けません、恰度能い加減の波の來る所が宜しう御坐います。先つ大磯の海邊位が宜しう御坐いませう、遠江の海邊の樣に屋根の樣な大きな波の來る所は往けません。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夫れから海浴に參りまして其効用を助ける者は、浴客が滯留中の暮してす。成るたけ新鮮の空氣の所、淸凉の空氣の所に宿を取りサウして朝晩〳〵に奇麗な空氣の所を運動する、多く此の海浴で運動致しまするには、先づ第一に濱邊を歩行いて見ますが夫れが大變に宜しう御座いまする海の景色や磯山の。草木が眼を慰め且つ精神を慰めますから知らず識らず運動を致します。其海邊を運動する事に就て私は一ツ發明した事が有る、御子樣方でも御女中樣方でも或はお年老でも海邊を運動する時は斯う云ふ風にした方が宜しい、的が無ければ運動が出來ませんが石を拾ひ貝殻を拾うが宜しい、例へば海の際に立つて居ると波が來るからたまらん波に追はれて逃げる、夫れから又往くと云ふ樣にすると一町歩行く中には十町歩行た位の運動に成り又活潑になり升。其時は成るべく御價値の高い惜しい下駄を穿いて御出なさい、サウすると濡れると堪まらんから逃げます、夫れが大變に宜う御坐います。

今度は水に這入る運動、海浴に往いて見ますと皆な最う乳の邊まで這入る樣な深い所迄這入つて居ります、男の人なぞは最つと深い所まで這入ります、元來海浴の法といふはソウ云ふ者では御坐りません、大抵波打際に足首が水にもぐる位の處を以て止まりとする、サウして陸の方を向ひて背を後にして居りますると、波が後ろから來て全身に懸つて來る、斯くして波に抑されて身躰が岸の上に進んだり又水の上に退いたりする、ソウするとソコで効能が顯らはれる第一一旦水に這入り又氣中に現はれる、左すれば冷たくなつたり温かくなつたりすると云ふ樣に始終温度が變はる。第二は水の碎片たのが來て射浴と云ふ法になります、當り前の浴法とは違ひます。之れは水鐵砲の先きに居る樣に水の碎れたので。身躰

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

をたゝきますから皮の働きが付き、夫れから又波がぶつかりますから自分が全身に力を入れてウンと堪へると、身躰中の筋肉顔でも手でも足でも皆一度に力を入れる、斯うすると自然に身躰中の肉の働きが強くなります、夫れで淺い所に海の方に向つてすると潮が鼻に這入つて痛くて往けません、夫れだに因つて矢張後を向ひて居るのが能いので御坐ります。ソコで海浴には總べて海の水が冷たく御坐いまして且つ波が靜かなれば成るたけ這入つて居る時間を短く仕なければならん、水が冷たくつて鹽氣が淡い時には、這入つて居ります時間を短く仕ませんと後とで風を冒きます、サウして水が温かに鹽氣が強く波が暴いと云ふ時には長く這入つて居ります、其時は長く這入つて冷くなつても直に身躰の熱を復して參りますから害はありません、是れが海浴に長く這入つて居るべき時と短く仕なければならん時とあると云ふのは此の譯です。

是れより海浴の効能を一ッ御咄し申ます、只今申したやうな色〳〵の事に因つて身躰の事まで御咄し申しましたのが些と六ケ敷ひからして極解り易い樣に申します、先づ皮の働きを強くする事を申しまする、皮と云ふ者ハ身躰の内部の機械に、外から來る所の病氣の毒が這入らない樣に防ぐ事をして居ります、(夫れからして未だ効能は有るが夫れだけの入用)ソコで皮が丈夫に成つて來れバ、汗をだしたり汚ない者を皮から出す事が大變盛んになつて來る、又其上に直きに風を冒いたりするやうな事が無い、又肉が丈夫になつて肉の力が付いて來る。ソコで其の皮が丈夫になり肉が丈夫になれば余計な力を出しまするやうになります、即ち働きが強くなりますた身躰各部の機關が整ふて働らきますれば、其爲めに古るくなつた分子はサッサと外に出して遣るからして、小

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

便を拵へる事も、何にも彼も達者になつて、汚ない古るい者がサッサと通る樣になり、從つて飲食の消化も能くなる、能くなるから身體の肉になり、肉も丈夫になり働きも連れて盛んになつて來るからして、大層身體が丈夫になりまする者ですが若し其の反對に餘計に新らしい物を入れるには夫れに從つて食物を餘計食べなければならぬ、其餘計食べた物を消化するには胃の腑が丈夫でなければならん、然るに胃の腑に病氣がある人は食物を消化してあとから送つて遣る事が出來ませんから、身體の權衡ひが惡るくなる故に胃袋の惡るいのには海浴は適當しません。誰れでも彼れでも海浴が能いと云ふのでは御座いません。夫れからして心の臟の病のある人或は精神病の人には惡るふ御座います。狂人や何にか何うも氣がアヲ〳〵仕過ぎて却て病を增進させます夫れからして子供は惡るう御座います。又老人も惡るう御座います。サウ云ふ樣に小さな小供や御爺さんや御婆さんは海の中に這入るのは惡るう御座いますが海邊で石や貝を拾つて步行くのは大變に宜しう御座います水に這入るだけが惡るいので總べて先程申し上げた濱邊を運動するのが能い。ヲマケに波が淙々する所で風の中に交じる所の水則ち霧が交ざつて居りますから、身體の機械が丈夫になり、又風を冒く癖なぞは海邊を能く運動をすると云ふと直りまする。年を老りました人や小さな小供なぞは海の水を沸して、溫かにして夫れを以て身體を拭きましたり或は夫れを浴槽に入れて身體にかけたり或はぬるい鹽湯に這入り段々慣れてからは海の水に這入つても宜しう御座います。先づ朝晩鹽の御湯で灌水を遣つて夫れから濱邊を運動するのが極く宜しう御座います。夫れで御座いますから「ホーベル」と申す人が定めました事を定規するが一番宜しいと思ひます。

(一)腺病といふを第一に申しませう、腺病と云ふは瘰癧の出來る子や、頭に瘡氣の出來る子、夫れから色が白くつてやせて居る子、又胎毒のある人抔を云ふサウ云ふ子供其外身躰に長い事腫物が出來て酷くウンだ爲めに身躰が勞れた人、夫れからして身躰が何處となしにだるく顏色の惡るい人、又風を冒き易い人、又神經痛の人、又顏の半分痛む病氣の人、其外大病の後少し直り懸ッた人、斯う云ふ人には海浴が適當して居り升。

(二)餘んまり身躰か弱過ぎる人則ち甚だひよわで知覺過敏の人、例之ば若い女の人、サウ云ふ樣に總べて物に感じの強い人所謂る神經過敏の性質の人は急に海の水に這入りまするると云ふと身躰が勞れます、又冷へると痙攣を起し眩暈がすると云ふ樣な事が直き有る人は、海浴は往けません。海の水を溫めて即ち海水浴にして這入るが宜しい。

(三)姙婦姙娠中には海に這入りますのは能く御座いません、夫れが爲めに墮胎する事が度々御座いますから御注意なさらなければならん併し御婦人が何うも充分に月の者を見ませんと云ふ樣な症は海に這入りますと、充分月經が整ふ樣に爲ります。

(四)子宮病の有りまする人は子宮慢性炎、或は子宮脫と申します病氣、其他子宮痛と云ふて子宮の痛みまする人には、海浴は禁じます。矢張溫かい海水浴がよろしい。

(五)僂痲質斯、痛風等で節々が痛みます病、夫れから肝の臟の病氣、又結石病と申して小便袋の中抔に石が出來る、事のある人は海に這入るよりは溫かい海水浴が宜しう御座います。就中其手足の痛む人は御湯で慣らして置いて海で少しボチャ〳〵遊つて熱くなつた砂の中に轉げるのか大變宜しう御座います。之を砂浴と申します。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

斯く海水に這入つて惡るい人もあれば這入つて宜しい人もあり又這入らねばならん人もある、然るに凡ての人が皆やたらに海浴に御出成さいますから隨分無理で御座います。ソレ故醫者の處に往つて這入つたが善い這入ッちやァ惡るいと云ふ事を、豫め見分けをして貰ふが宜しい。誰れでも夏にあれば海浴に行き、醫者も何かと云ふと海浴が宜しい〳〵と申して、大層海浴が流行りますが夫れは餘り宜しくない事と存じます。

ソコデ這入る時間を大抵に定めませんと、餘ンまり長湯をしては惡るう御座います。溫海水浴に這入りますのは大抵子供は十分から十五分迄、大人は二十分から四十五分位の間這入るのが宜しい。夫れから溫度は平常の御湯よりはぬるくして、這入らんと云ふと往けません、則ち攝氏三十四、五度位いを適當と致します、是は大變にぬるい御湯で御座いますが、其位いが恰度宜しく御座います。併し僂麻質斯、の病ひのある人には、少し熱くして三十七、八度位が宜しう御座います。

海浴、則ち海の中に這入るのは十分から十五分間位いを適當と致しまする、海浴に往つて見ますと朝から晩迄這入つて居る人が有りますが（宅の悴なども海浴に參りまして、サウ云ふ事を致しましたから皮が眞黑になつて仕舞には剝げました）サウ云ふ事をしては爲りません。何でも十分から十五分位いを適當とします。サウして這入る時は朝と晩とが宜しい、日中炎天の時に這入るのは宜しくない、這入ては往けません。夫れからしてお腹の空いた時には這入ては爲りません、大變御腹の空いた時這入ると眩暈がする事が有ります。常生の御湯でもサウです。又餘んまり何にか食べた時這入ても能く有りません、御酒を飲んだ時も惡るい。夫れからして身躰が熱くな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り、温たかで〳〵たまらんやうな時に這入ては爲りません。夫れですから御腹の空いた時は、先づ少し御菓子か、或は御茶位いを飲んで、サウして海に行くが極く宜しう御坐います。又身躰の熱つい時は、徐ろ〳〵と濱邊を歩行いて、身躰の冷へるのを待つて御這入りなさいまし、總べて海浴を致しまするには彼樣に致しませんければ往けません。海浴の効能、又海浴する方法抔を篤と存じたる上でなく、無考へで參ると或はトンダ間違ひを生ずる事も御坐いますから、聊か御注意までに申し上げ置き升。

○まどのお噺し　（五月例會講演）

色川　圀士　述　佃　與次郎　筆記

○

私の御噺は玆に掲げて有ります通り「まどのお噺し」で御座います。一躰此御噺をしります譯は日外濱尾さんの奧さんと加藤さんの奧さんより「來月は何かお噺をして呉れまいか」と仰せが有りました時に、私は、玆に毎日〳〵出て參る者ですから至つて無造作に御請を致しました、處が幾日の事で有つたか噺の題を報知して遣こす樣にと云ふ事で、其時に成つて驚きました。餘まり易請合をして御噺をするとは申しましたが、一躰私は衛生上に就ては餘り深く調べては居りません然し二十年來敎育の業に從事し居りますから、敎育上の御噺なら隨分蓄へて居り且生理の敎授抔を致して居りますから、其中で先づ何んな事か御噺たら善からうと考へて見ましたが、若しも前回の御噺しと重複する樣な事が有つては困りますと存じまして先日鳥渡雜誌の第六號を拝見しました處が婦人衛生一斑とか乳母を雇べき心得とか衛生法は實行にありとか、子供の育て方とか育兒の手引とか大躰の事はもう出て居るから別段に私の御噺申さうと

思ふ事も御座いません、そこで其重複を避けて此んな妙な題を出して置きました。

「まどの御噺し」と申した處が多くは學校の校舍に就き何の位の大きな窓を何んな風に開けたならば宜しいかと云ふ樣な事を、十五、六年以來調べたのですから、其樣な事を御噺しますと幾等も種が有りますが、それでは衛生より寧ろ敎育談に成つて仕舞ひ、それでも困りますし。日外も斯う云ふ事がありました宇都の宮に女の會が有りまして、其處に賴まれましたから、宅で其噺しを調べて持つて參りまして、是れらか御噺しを仕樣と思つて皆さんの御顏を見ると存外の事が出來ました、私共が常に學校の敎育に從事して多くの生徒衆を預つて居ますが、それは何れも試驗をして入校し又試驗をして級を上げる、故に一級々々と聽く人の力が一定して居るから、御噺しをそれに合はせて徃けば宜いのですが、宇都の宮に參ゐつた時の聽衆の御方々には、膝の上に未だつこして居つしやる樣な御子樣もあれば、又大抵の生理書位ハ辨まへて居ると云ふ樣な御婦人もある、恰度此の席の樣で御坐いました。乃て私の拵へて徃つた事ハ御噺し申す事が出來ずに、別の御噺しを即席御料理として差し上げた事が有つたが、今日もそれと仝し樣に先づ「まどの御噺し」と云ふ題を掲げて置て、古語に所謂之を入るゝに窓よりすと云ふ通り正面の玄關より說きこまれぬ事ハだまくらかして窓より容れると云ふ樣に、妙な處から引つ張り込んで徃からと思ひます、何卒左樣に御承知下さい。

扨て愈々窓の御噺しに掛りませう、私の申す窓と云ふハ先づ大抵紙で貼りたる窓か硝子で貼りたる窓の事です。そして硝子の窓に就て御噺し致します、近年頻りに窓ハ硝子で此校の通り西洋風に造つて有る家が段々殖えて、此節でハ學校や御役所のみに限ら

ず何處の家でも硝子障子が有ります。そして煉化造りで、硝子窓の上がり下がりの工合が好く出來て居れば居る程、私の御噺しの材料に成るのです。即ち好く出來て居る窓ハ衛生上に往けないと申すことで私が今左樣に申せば皆樣は西洋の樣に衛生上に注意する國々でさい往けないと云者もなく、且善く出來たのが惡るいとハ何う云ふ譯かと仰せられませうか私ハ日本に限つて往けないと思ひます。日本の人は兎角半分は西洋風の暮しをしても半分は日本の暮しをして居る、則ち西洋造りの家の内に火鉢を澤山入れて居ります、それで硝子窓が往けないのです、然し委しく申せば實は火鉢が往けないのか窓が往けないのか何地かです。火鉢を入れて置けば硝子窓と如何なる關係が有るかと云に、日本の障子と日本の火鉢とは三千年來の御馴染です、親類であつたのです、然して今でも尚ほ御親類であるのに、硝子窓は二三十年來這入つて來た漸〱一面識位の交際で未た御馴染にありません、そこで何うも人間の身躰に害になると云ふ事です。

さうすると貴孃方が御問ひに成りませう「何故新しき知人は往けないか」と此の古い親類の日本の紙は質が粗造です、紙に幾個も穴が明いて居る、其穴から空氣が出たり這入つたり始終入り替ります、然るに西洋の硝子窓は善く出來て居れば出來て居る程、空氣の流通が仕惡くゝある、其流通し惡くい窓の中に火鉢を幾個も入れて充分部屋を煖めますそれが惡う御坐います。赤坂の御所邊でも眞鍮の圓形火鉢が澤山に這入つて居りましたが、其の頃は未だ假り御普請で有つたから從つて流通も宜しくありましたが、本統の御普請が出來上がりますと困ります、然るに裏店邊では火鉢で温を取り夫婦や又は子供や大勢でちやく〱寢て住まつて居るから、身躰に惡るいて有

らうと思ふ處が、幸にも其窓は手習草紙か何にか古るい紙で貼つてある、加之に大きな穴が那處にも此處にも明いて居る、夜る雨戸を閉るとしても隙だらけの雨戸で折角締めても夜も晝も仝し事と云ふ樣な造り方で有るから、室の中で拵らへたる惡しき瓦斯は幾くらでも外とに逃げ出して、外の空氣が中に這入る事が出來る、然るに若し是れが立派の御家で窓の好く出きたる一つ部屋に五六人もして火鉢を入れて寢て御覽なさへ、炭酸中毒するか、仕ない處が乾度翌日は頭が重い、それで西洋造りの好く出來た硝子窓ハ日本風に火鉢を入れて住居う人には恐るいと云のです。そこで私ハ又横の方から引き入るゝ御咄即ち其炭酸瓦斯の事を鳥渡御斷し仕やうと思ひますが前側の御子供衆は能く御聽き下ださい、併し是を御存知の人、若くハ學問の有る御方にハ誠に御氣の毒ですが仕方が無い其間他の事でも御考い下さい。

借て空氣です、斯樣に手を動かすと觸れる者が有りませう、此空氣と云ふ者ハ酸素と云ふ者と窒素と云ふ者と交ぜ々々で出來て居るものです、又炭素と云ふ者が有ります御子供衆何んな者でせう見たとが有りますか、即ち(炭を示し)是れです、此炭が炭素と云ふものです、又(石炭を示し)是れも炭素即ち石炭です、色々ある、(金剛石の見本を示し)是れも炭素で「ダイヤモンド」です此れハ雛形ですが幾個も有りますから後刻能く御覽なさい、正物なれバ一個で何千万圓とする程の貴重のもので、此の函中の金剛石が皆正物ですと大變の金持です、それで此炭素と空氣中ある酸素とが結び付きて眼にハ見へぬが一種の瓦斯を作りますそれが、炭酸です。今火鉢に炭を入れて置けバ自然に段々消なつて僅に灰を殘こして他の者ハ皆見えなくなる是れが即ち酸素と炭素と結び着て炭酸と云ふ者になつたのです、又空氣中の酸素

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が吸氣で身躰の中に這入ると身躰の中の他の物と結び附いて矢張り目に見えぬ物と變して、口や鼻の中から出ます是も亦炭酸です。故に貴賤貧富老幼の別無く、只今でも皆さん共に其炭酸を拵へて居るのです、さう云ふ炭酸を製造して居るのに、窓が硝子で有つた時には外に出る事が出來無いから、遲かれ早かれ室の中には炭酸が充滿するように爲りませう。さて其時には如何かと云へば、それは最う炭酸の人に毒と云ふ事は前々の御會に於て御斷しが有つたらうと思ひますから私はざッと演べますが、炭酸の多い處には迚も人間は生活して居られないのみならず火も亦燃へる事が出來ません。皆樣の中で攝州有馬の温泉杯に御出でに成ッた方は御承知でも御坐いませうが、有馬には鳥の地獄虫の地獄杯と云ふ處が有ります虫の地獄と申す處は其穴の近かく迄虫が這つて行くと忽ちに斃れて死ぬ、と云ふ者は有馬は炭酸瓦斯の多く出來る處で有つて小さなる低き處に炭酸が自然に溜まるのです、其處に虫が這つて往つて瓦斯を吸ふと忽ちに死ぬ、所謂虫の地獄です。鳥の地獄と云ふはそれに比して稍や深い穴にして其穴の近くに鳥が立寄りぴよん〳〵飛んで往くと忽ちに死ぬ、それですから最う少し其穴が深いなれば犬の地獄も出來ませう、もそつと深いと人の地獄も出來ませう。今私が假りに死んで御覧に入れる事も出來ませんし、鳥を捕へて此坐で殺して御覧に入れる事も出來ませんから先づ茲に火を消して御覧に入れます。炭酸の人間に毒に成る事は、炭酸の中に於て火の燃ゆる事が出來ぬ一事でも解かります、今それを前側の子供衆の御慰みに御覧に入れませう。

それから序に入らぬ事てすが御斷しをして置きますが、此壜の中に有るのは大理石、即ち炭酸と石灰と云ふ者が密着いて有る、故に別に此處から強い鹽

酸と云ふ藥を入れると、其の爲めに炭酸が石灰を取られて自分は管を渡つて向ふに逃げ出して行くのです、それは恰度火鉢と口よりして炭酸を製造し出すと同じ理屈に成るのです。

炭酸中に蠟燭の燃えざる試驗

蠟燭の火を消して炭酸の空氣より重きを示す

右の如き次第で有りますから、貴姉方の御家でも一室を締め切ッて空氣の流通を絕ち、中に人が大勢居り、ランプを點もし火鉢を入れて置きましたならば、矢張り此の通りの炭酸瓦斯が出來て身體を害します。則ち火鉢は三千年來害が無かッたのに今日害があると云ふのは烏渡可笑い樣ですが、それが紙の窓と硝子の窓との違いです。故に硝子窓で構造がよく出來て居る御家では、餘り火鉢に火を置いたり抔致すは宜しく有りませんから氣を附けなければなりません。常に能く窓を開けて室内の空氣と室外の空氣とを入れ替ゆる樣に注意するが肝心です。序でに伺御噺しするが、今炭酸々々と云ッたのは炭素が一ッと酸素が二ッと結び着た者を申したのですがそれよりも兩方一ッ宛結び着いた者は一酸化炭素瓦斯と申して夫れを吾人が呼吸すると炭酸より餘ほど毒です。此の「すとーぶ」(日本で申せば火鉢の火に灰をかけ、いけると同じ事です)、くべた石炭を翌朝迄留める爲めに、すとーぶの蓋をして溜めて置くと時としてそれが一酸化炭素(炭酸に成り兼ぬる時)と成ッて大害をなすことがあります獨逸抔では此儉約主義よりして度々人が死にまするを云ふ事を聞きました。夫婦子供乳母諸共に、前晩迄は達者に噺して居ッたのが明くる朝見ると、呻吟もせず痛くも痒くもなしに、自分も知らず人も知らず皆な寢たまゝ死んで居ると云ふ始末に成る事が有る。寢て居て死んだなら眼が覺めた時に何れ吃驚りしましたらう、私共でも寢て

居て其儘死んだなら何れ起きてから吃驚りするに相違ない、けれども死んで眼の覺めた話も聞きませんから大丈夫。

尙ほ一ッ申す事は空氣を流通すると云ふ事は實に宜い事に相違ありませんが、併しながら顏でも手でも一局部を風に吹かるゝは惡るいのです、それで私は此の學校で頻りに空氣流通の事を考へて種々に試驗も致しましたし、未だ今でも致して居りますが、隨分窓を開けて居りまするど寒中などは御寒むいのです、それで困まるし。夫れから私は教場の溫度を取つて見て、同一學校中の各室を同時（如何しても五分や七分の差は有りませうが）に溫度を見まするど、先つ一室にてすとーぶのある處と、窓の邊とは凡そ十六七度から違ひます、又各室にては南側と北側とに十五六度の、違が有る、一つ室に於て既に十七度も違つては大變の事です。夫れですから窓が開いて居りますと其側に居る人は居耐まれぬ程に寒い、故に西洋造りの家に於て、空氣を流通せしむるならば、ぢかに窓から寒い空氣が來ない樣に仕なければなりません。大躰は冬に成ると何れもぴつたり締め切つて置きますが、兎に角何れの口よりか自然と流通が附く樣にして置かなければなりません。夫れは學校の話ですが、貴婦人方の御家でも必ず硝子窓が出來て居るでせうから、兎に角に第一は家に多くの火鉢を用ひない樣に願ひます、寒くて窓が締つて居る中に多分に火を置きまするど、次第に頭痛が致して健康を害しますから、何の道から論じても緻密に出來て居る窓の室は室僕に注意して、炭酸製造を御止めに仕度いと思ひます。

今日は是れ丈けに致します。

○塵埃之說　（三月總會講演）

坪井次郎　述　仙與次郎　筆記

今日は塵埃の事に就いて御咄し致します、塵埃とは如何なる者かと云ふに、通常空氣の中に飛揚する小躰を、塵埃と云ひます、是を悉しく驗べて見ますと其形に大小の差のある者で、其儘肉眼で見ることの出來る者もあれば中には肉眼では迚も見へず、強き顯微鏡で漸くに見認め得る程の者もあります。塵埃と申すものは、全躰如何なる性質の者かと云ふに、先つ其中で、一番形の大きな者は、砂で御坐ります、從來の土地が乾燥て飛立つので、誰しも直ちに見ることの出來る大なる者です、東京杯は尤も此の砂が多く、殆んど名物と申しても宜しい程で少し風でも吹きますれば、市街一般に塵埃がたちます、其次は人々の着て居る衣服及綿の摺り切れるか爲に生する塵埃にして、砂よりも一層輕く、容易く空氣の中に飛散し。宇宙に浮んで居るものであります、又動物の毛即ち馬、猫、或は家鷄、鶩の如き者の毛が、極めて細かく摺り切れたるなどが空氣の中に交はつて居る、是等も總べて塵埃です、又細かき炭の粉、若しくは石炭などは火鉢の中に在つて火氣に乘じ、空氣中に同じく塵埃と爲て存してあります、併し是等の者は平日には余り見ることが出來ませんが、少し薄暗ひ部屋で、太陽の日を映し込めて見ると解かる、恰度、朝起きて雨戸を少し開けるか、窓から映し込む日光に依つて、其室内の空氣を見れば、實に得も言はれぬ程の塵埃で、もや〳〵と立て居るのを見ませう、是は總べて衣物、其他の細粉が、塵埃となつて空氣中に浮び居るのです而して單に日の當る時計りで無く、晝夜共、此大氣中にはいつも塵埃が其の様に在るので御坐りますから、人々は其塵埃をば口鼻より呼吸して居るのです、實に恐ろしき程、澤山の塵埃が、其中に這入つて居る、

若し少しても風が吹きますと、隨分大きな砂塵を呼吸しなければならんで御坐ります

塵埃の中に最小なるものがありまして、然しそれは殊に大事のものであります、一ト口に是を申せば黴です、黴の種です其種が空氣の中に這入つて居ります、其種子は極めて細かきものですから、平常は見へません、日當りの宜い處でも見ることは出來ないが、梅雨頃の濕潤する時節になると、衣物なり、食物、其他、壁抔に種々の黴が生へます、此黴は如何にして生へるかと云ふに、空氣中の塵埃の中に在る處の、黴の種が衣物なり、食物なりが、濕氣を含んで居る所に附着し、始めて其處に落ちた種が生へるのです、之よりして考へて見ると空氣中に黴の種のあることが明ります

此黴のことを、段々委しく驗べて見ると、敢て壁や、食物に生ずる者斗りではない、其種類にも種々有るが、先づ此の黴の中で麥酒や、酒を造るものがあります、假令へば、葡萄酒を造るに當つて、葡萄の甘き汁を蓄へて置くと、自然に空氣の中から、黴が落ちて來て其黴が這入つて爲めに葡萄酒が出來ると云ふのです、其黴は如何なる處から參つた者か、先づ空氣中より來たものには相違無い故に、黴は敢て害になる者斗りではない、中には最も吾人に大切の物もあります、總じて、此酒類を作る黴は、圓き形を爲して居ります醬油をば、長く仕舞つて置きますと、黴が生へませう、其黴を能く見まするると、矢張り葡萄酒抔に出來る黴と、同じものです、即ち空氣中の黴が醬油の中に落ちて、御承知の如くあの樣な色を見はして生ずるのです、今試みにコップの中に、砂糖水を拵へて置きまして、例の醬油の黴を取つて其中に加へて見ますと、忽ちに酒が出來ます、容易きことですから御慰みに試驗を爲すつて御覽なさい。

右述ました通り有益ある黴も有るが、又一方には隨分恐ろしき者もある、そは何かと云へば種々の傳染病病毒も黴の一種であります、先刻長與先生の御咄しになされた、窒扶斯、虎列剌、質扶的利亞等の傳染病があるが、其源因は皆黴であります、空氣と共に人の口から此黴が這りこんで、病氣が起る、尤も空氣から計りでなく、水の中にも含んで居ることが、有りませう

今一ッ私は空氣の塵埃中に恐るべき者のあると云ふ事を、御咄し申さうと思ふ、其恐るべき者と申すは、肺勞のことで、有ります、此肺勞も、一種の傳染病にて其病毒は何かと申せば、矢張り小さな黴で有る、是黴も同じく、空氣中に在て、之を吸ひし人は病に感染するのであります、癆症の人は、兎角にせきが出る、或る時は、血が、痰に交ざッて出るが之は肺臓が、次第に頽れて來て、段々縮んで來るのです、肺は日夜空氣を吸ふて居る道具にて其道具か一番先に犯さるゝ所より考へて見れば、肺勞の病毒は空氣より來るに相違ない、

尙ほ序でに御話し申して置きますが、或る西洋の病院で、肺勞の患者の居る、病室の床下にある塵埃を集めて、兎の如き動物に、是を皮下注射して見た所が、其兎は倏ち肺病に罹たと云ふ例があるので、則ち此病室の床下の塵埃の中には肺勞の病毒のあることを悟りました依て醫科大學の病室に於ても撰科生安原豊也君か、肺病患者の床下の塵埃を取りて、試に兎又は其他の動物に注射して見ましたか、是れには毫しも病氣か起りませなんだ、長與先生の御咄し有ッたる如く、日本人は總べて淸潔を好み、西洋の病室よりは、新しき爲めか、淸潔なる爲か、其病毒の無ッたと云ふは、誠に喜ばしき事であります、先づ西洋の病室なれば、痰を室の內外に吐き散らすか、日本にては一

々是をコップの中に集めて、置きますから、左様な恐れは無いと見へます

其外如何なる傳染病でも、概ね此黴よりして起るであるから、酒を造る様な大切な物も有るに引換へて、又身躰に取て、實に恐るべきものもあるから、何れも共に塵埃には注意しなければならぬことと思ひます

今迄御咄し致したは、總べて其塵埃の種類のことであるが、是れよりは空氣中、其量に差異のある事を、申し上げ度いと思ふ、世界の中には、此の塵埃が、大層に多い處もあれバ、甚た尠ない處もあります、併しながら、如何なる處に往つても、決して塵埃の無いと云ふ事ハありません、東京の街上とか、若くは人の家の中抔ハ勿論大層餘計で、殆んど一ぱいと申しても宜い位である、又二年、三年位ハ無ひ家でも、必ず塵埃か有ると云ます、亦閑靜の處例之ば九段の公園でも、上野の公園でも、又山の中でも、塵埃が無いかと、云へバ必ず多少ハ有るのです、決して無いと云ふ處はない、併しながら、最も高き山、彼の富士山の巓か若くハ陸地を離るゝと、最も遠き海、即ち日本より亞米利加に至る迄の、大洋中の眞中に參れバ、殆んど塵埃ハない、併し殆んど無いと云ふので、少しも無いと云ふことでハ有りません、亦塵埃ハ遙か地面を遠かりたる處にも在る 其證據ハ雲です、雲ハ大層高き處にありますが、是れハ如何なる者かと云ふに、則ち水の蒸發したる者で、其蒸發したる者が、どうして見へるかと云ふに、風の爲に捲き上げられたる塵埃周圍に、水蒸氣が沈澱して初めて雲となり見ることが出來るのです、既に雲の在る處には、塵埃があるとすれバ、此の塵埃ハ、大層に高き處に迄、有ると云ふことハ疑ふべからざる咄です

塵埃の御咄ハ、先づさつと、是で濟むのですが、是よりハ塵埃の取り方です、如何にして此塵埃を除くか

と云ふに、貴嬢方が毎朝爲さる處の掃除です、如何にして掃除をなさるかと云ふに、日本では先つはたきと、箒と、雑巾とで遣ります、先つ第一に、はたきを以て戸障子の塵埃を墮し、箒を以て疊の上を掃き出し、又雑巾を以て拭ひ淸めたるので有るが、此の中ではたきと、箒とを用ゆる事は、私の考へでは餘り良き事とは、思はれない、何故なれば、部屋の中には、手を着けずに居つても、塵埃が滿ちて居ると云ふは、解つて居るに是をば毎朝はたきで、はたき落し、箒で以て掃ひ廻せば、尚ほ〳〵座敷一面に、部屋の空氣をして塵埃だらけにするのです、して見れば、掃除の爲めに坐敷の中の塵埃は、餘計に爲ると言はなければならぬ、此塵埃の餘計に爲たる空氣を、平氣で呼吸するのは至て宜しくありません、斯く申すと、日本の掃除法は、甚だ不都合で在つて、はたきや、箒を用ひてはならんとも聞へますが、左様でもありません、一方から考て

掃除の法を能く仕ますと强ち惡るいと計りも云へない、先つ部屋の窓や、障子を開け放ち外にはたき出す様にして、掃除の後、久しき間戸障子を開け放して外の空氣と代謝へる様にしたならば、餘程塵も、少なくなつて善さゝうに思ひます且つ半時や一時間位ひ置かなければ、充分に空氣が代ると云ふ譯には往きませんが、或人は掃除をさいして仕舞うと急遽て障子を締ます甚だしきは、戸障子を締切つて置いてばた〳〵掃除をする人もありますが是では却て掃除したる爲に、部屋の空氣を不潔にするのであるから如斯き掃除はせぬ方が勝つて居るかと思ひます、掃除をして仕舞つて、直ちに其部屋で、朝飯を食する人がありますが、之は捲き上げられた塵埃が次第に靜まつて墮ちて參いるから、其處の中で食事をすれば、御飯や御汁の中に態々塵埃を入れて食べると、同様の事になりますから掃除をしてから暫く時を、經

てから食事をしなければなりませぬ。
それと違つて、雑巾掛けは、私は至極賛成しやうと思ふ、布を濡して塵を拭ふのは、至極結構の法で、雑巾なれば塵埃の立つ氣遣いはない、全般塵埃をふき取る事が出來る拭いては雑巾桶で洗い、洗ふては拭く是れが一番宜しいと思ふ、成べくわはたきや箒を使ふ事を、少くして雑巾掛けで部屋の掃除をする方が良からうと思ひます併しながら、雑巾掛けも注意しないと、大間違ひの事が出來る、それは則ち雑巾掛けをする水ですが、若し水が不浄の者で有つてはなりません、一度水を汲めば終局迄、如何に不潔に成つてもかまはず其水で雑巾を洗ふ於さんも有りますが其水は幾度も取換へて、使はなければ往けません、何となれば、若し穢ない水なれば、折角拭いた雑巾掛けも、濡れて居る間は宜ろしいが乾いて來れば其水の中の不潔物が塵埃となり空氣中に交ると云ふ樣な虞れが有ります、故に雑巾桶の水は屢々取替へる樣注意しなければなりません。

序でに今一御注意を願ひ度いのは、雑巾を洗ふ水、是れも必らず飲料水と全じ水を以て仕なければならん、先刻長與先生の御噺有りたる通り若し悪るい水なれば其水の中に悪しき病毒がある若し其病毒ある水を以て雑巾掛けでも致したならば板の間の乾くに從ふて病毒が再び塵埃と爲て部屋の中に交りて、吾人は其塵埃を呼吸しなければならん樣になります之は誠に危險であります、既に之を呼吸すれば其水を飲んだと全樣の結果を生ずるのです故に其水も雑水でなしに、矢張り飲料水を以てしなければなりません、何も雑水と、飲料水と區別しない方が能くわります悪るい水は何處迄往つても悪るいのです。

尙ほ一つ御聞きを願いたいのは、日本の風習で歳晩

に至れば大掃除を致します、平日迚も毎日掃除は致しますが、煤掃きと申して、一年中の塵埃を取る爲めに、大掃除を遣ります、是れは何時の世から始つたかは知らないが、日本の風として至極宜しいと思ふ、即ち日本にて、古き時代よりして衛生の事が行はれて居る一の證據になると思はれます、其れのみならず、煤掃きの日は御目出度と申して、謡い、或は酒を飲んで、家内中樂しむ有樣です、斯くも、日本で清潔方を樂しみ歡ぶ事は面白い事で、成るべく煤掃きは毎年怠らずに行はなければなりません。

倘ほ私の願ふ處は、今日の煤掃きをば今一層擴張して、第一其度數を增し今迄一年に一度宛致したのを、今度は二度も、三度も大掃除を爲すと云ふ樣に致し度い、第二には大掃除の時家の中計りで無く、成べく床下の掃除も、天井裏の掃除も必要で有らうと思ひます、鳥渡家の中丈けは奇麗でも其上と下とは鼠の糞やら尿やら實に不潔極つて居る、亦下水どぶ杯も、大掃除の時に共に掃除し、又雪隱の如きも大掃除の時に桶が損じて居る樣な事でもあれば是を改めると云ふ樣にして往つたならば、日本の家屋の清潔法は餘程進歩するだらうと思ひます、故に私は掃除の仕足らぬ所氣附かぬ所を注意し、倘ほ大掃除を擴張し其度數を增し益々掃除法の盛んに行はれん事を望む者で有ります。

今日は是れ丈けで御免を蒙ります。

○婦人の衣服に就て（六月例會講演）

石黒　忠悳　述　仙　與次郎　筆記

私は石黒忠悳ですが先月の十九日に加藤先生が御出下すつて少々賴む事が有ると云ふ事でげして、何ぞの御賴みかと申したら來月の婦人衛生會の常會で貴婦人方に向つて、何か申し上げる樣にとの御賴みて

御座いますが、甚だ是れに當惑致しまする事ハ、私が當御會に出まして皆様に向つて御話し申すに甚だ不適當の箇條が数々御座いまする。第一私ハ無骨者で、貴婦人方に向つて御話し致す事ハ性來能く致しません。第二私が二十年來苦心して調べて居ります事ハ軍隊衛生の事で。今年の徴兵應募者ハ五分大きいとか割合に强壮なる者が多いとかを何よりの喜びとして居りまする事で御坐いますから、軍隊に付てのとなら如何程でも御話し申すが何分にも兵隊の中には御婦人が一人も御坐いません。私の從來の研究が斯く不適當で、此の二つの箇條が御請け致しまするに甚だ妨げを致しましたる事で御坐います、併しながら加藤先生とハ特に御懇意の中で色々願ふと思ふ事も御坐いますから、私も勉強して當御會に參り聊か先生と御交易の積りで出ました。然るに爰に困りました事ハ、第二の土曜日と伺つて居りました所が實は第一土曜日で御坐いました、大層日が短かくなり從て調まする時日も御坐いませんで、極めて短かく(御爲めになるか成らないか)猫の尾の様な事だが、其詰まらぬ事を是れより申し上げるて御坐ります。

近年男女共服制が替つて、男も昔しの様でハない袖のない窄袖を着るとか、御婦人も孔雀の様な服裝をするとかして、漸々西洋風に成りますが、先年私が歐羅巴に出立しまする時分は頗る西洋服が流行て、下女までも金巾の洋服が欲しいと云ふて强請る様な景況で有つたが、一年半經て歸へつて見まするると、今迄西洋好きで在つた御婦人が大丸髷に小紋の紋付きと云ふ様な、大層女服に變遷を來す事が甚だしう御坐います。併しながら如何に變遷致しまするに就ても、皇后陛下の御令旨の有りまする上は、(此の聖命の下に立ちまするからには)禮式には矢張り洋服を御用ゐに成るべき事で有るし禮式に御用いになれ

は常にも之を用ふるを法ありと信じます故に今洋服に就て御話しするのも、强ち無用で御坐いませんと思ひます。

洋服にあるに就いて、禮式には何色を重もに用ふるとか喪には黑いものを重もに用ふるとか、二七日迄は如何なる物を着て二七日の後は如何なる風に替る、襟も替る手袋も違ふと云ふ、其の邊の御話しは私の今日申す領分外だから述べません。先づ世間で洋服を衛生的に論ずる者は孰も口を極めて洋服はころせつとが惡るい、恰もころせつとは婦人を責め殺す者の樣な事を申して居るのは、私は甚た不平です。ころせつとは肝臟を塞逼するとか血行を妨げるとか云ふ攻擊が有るが、此の攻擊が果して當るや否や。抑人間の衣服と云ふ者は、根源に溯つて見ると二つの目的より外にない、二つとは即ち寒暑を凌ぐと、次は匿すべき部分を隱すと云ふ、此の二つの目的より外にない、併し漸々人文の開くるに從つて、只暑さ寒さを凌ぎて、匿す可き部分を隱すと云ふ丈けでは足りませんで、容貌を飾ると云ふ事が附隨て參つた。夫れより次第に變遷して、今日になりますると、寧ろ寒暑を凌ぐと云ふよりも寧ろ着物は身體の飾なりと云ふ事に成つた。是れは勿論惡るい事ではない、人間が進步した一つの證據で有る。故に着物は只衛生的の物で寒暑を凌ぐ丈けと云へば、則ち衛生的計りに用ゐると云ふなれば、外にも例が有りませうが、衣服計りでなく、食物で申せば、飢を凌ぐ即ち腹一杯に食へば體を養ふに足りるので有るが、然うは往かない、何うしても旨いと云ふ事が附いて往かなければならない、若しも體を養ふと云ふ丈けで有れば、雞卵さい食べて居れば宜しい、雞さへ飼つて有れば別に不都合もない樣だが、昨日も今日も亦明日もと、三度々々食べて居れば結構の雞卵ではあるが、食ふ

に就て飽ると云ふとが起る、して見れば立派の暮しをして、運動しないで牛の肉の樣な結構な柔らかい物のみを食つて居る人と、麥飯茶漬などばかり食つて居る人と、其の養ひが孰れに在るかと云へば、申さずとも皆樣方に御解になりませうが、どうしても旨ひと云ふ事が加はらなければならない。

男と女の體格の搆造は固より同じでない、同じでないから二つに別れるので、外形に就て申せば（是れは御婦人の席だから身體の部分などは申すまいと思ひましたが、今雜誌を拜見しまするとと大分躰の事に就て、御演舌の有つた方も有る樣ですから鳥渡私も申すが）外部の中で一番腰の邊の部分が違ふのです。故に服裝も從つて男子とは別でなければならない、夫れは啻に西洋計りでない、支那でも日本でも、婦人の服は腰から胸にかゝつて注意して作つて有ると云ふとは、何處の着物を見ても解かりませう。然して胸から腰にかゝつて婦人の容貌を作るには、何うしても一種の鎧狀のものを着なければならない、鎧と申すと金や鐵で作つた物の樣に思召ませうが、さうではない、何うしても御婦人の躰を見好くするには此の鎧を着なければならないが、若し此鎧を以て堅めると云ふとをしないなれば、風呂敷の樣な物を上から被つてふわりとして置かなければ、容貌が好くならないのです。故に日本の古き書物とか繪卷物とかを見ますれバ解るが、六七百年前に於て赤染衛門右馬内侍杯の正服ハ何んな者かと云へバ、袴を着けまして上から袿衣を着て「ふはり」と掩ふた者を着て居る是れハ則ち鎧を着ない代りに、「ふはり」と上わ着を以て形ち作つたので有ります。然らバ武家の服裝ハ何うかと云ふに是ハ裲襠を着て居ります、是れも「ふはり」とした方から來たので、其れが次第に變遷致しましてから、遂に今日の御婦人の着物を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見ますれバ如何でせう、今日でハ能く貴孃方の帶を御考にならなければならぬと思ふです。御婦人方の帶と云ふ物ハ、啻に着物の前の廣がるのを拒ぐ計りでハない、若し其廣がるを拒ぐ計りと云ふなれバ、小供の時に用ゆる附紐と云ふ物、あれを以て勝手に結んで置いたならバ隨分便利の樣に思ひますが、多くの婦人方を見まするど幅の廣く重くしかも此にハ繻子だの緞子だの厚板だのと云ふしつかりしたる品の帶を御締めなさる樣に見へます。夫れで此のしやつちこ張つた重ひ金のかゝつた帶を締めるハ何う云ふ譯か、則ち是れが無くてハ婦人の容貌を作るのに具の裝飾に適ハぬから我慢して御締めなさるのと思ふ。

西洋服も同じ事で、鎧狀のものを若て腹を締め其の容貌を作りました。夫れが漸々に開くるに從つて終に今日のこるせつとを用ゆる事になりましたが、こるせつとにも種々の製作の者が有る、鋼鐵のも革のも堅でむのも有りますが、つまり鎧を若て容姿を作ると云ふ點から出來て居のです、一體風俗の變遷と云ふ者ハ何う云ふ者で有るかと云ふに、凡べての御婦人に限らず服裝などハ世の好みに從ふだけの事でそう理屈の澤山有る者でハ無い。御存じの通り日本婦人の髷にしても、一つ島田で有るかと思ふに然うでハ無い、或る時ハ秋刀魚を竹の皮に包んだ樣な島田が有り、又或時は綿温石に中ゆいを仕た樣な頭りも流行る、然らば是れなる綿温石の島田が何う云ふ利益が有るか、秋刀魚の竹の皮包みが如何なる理屈で宜しいかと云へば、其の理屈はない。併し秋刀魚の竹の皮包みが流行する時に、綿温石が出ると何うも可笑しいと云ふのは、是れは決して理屈の有るべき者ではない。啻に頭計りでなく、形ち計りでない、根が一寸上がつたとか下がつたとか、其上り下りでも

時好に違つて居ると、可笑うて堪らん。一寸長いとか短いとか云ふ、そこに如何なる理屈が有るかと御問ひ成されば解らぬが、つまり時の勢で、見た所が好いとか惡るいとか云ふ事になる、甚だ六ケ敷いので、故に前にも申した通り、今一斑に幅の廣い、重い高價の、ぎでちない帶を締める。夫れで是れは締り方が惡るいから、左程に廣くない紐を一本鳥渡締めて居れば宜いではないか、驕つた所で縮緬の三尺で宜からうと云つた所が、締められる者でもなく、締めて見られる者でも御坐いません。而して西洋服のころせつとも、同じ事で、衛生の爲めに而已着る衣裳なれば宜しいが、若し正服の時に、ころせつを無しに御出なすつた貴婦人が有つたなれば、先つ御挨拶を仕ない先から吹き出すと云ふ樣な事になりませう。夫れなれば今迄用ゐて居つた日本服が、必ずしも害をしないか、盡く衛生に適して居るかと云ふに、然うは往かない。隨分常に御締めに成る幅廣の帶でも或る者流に於ける如く縮緬の「しごき」を十筋巻くとか、又例の幅廣の帶を家内中總がゝりで締めつけると云ふ樣にすれば、日本の帶でも害のない事はない。故にころせつとでもやれ下女も來い番頭も來い、力ら一杯に締め附けると云ふ樣では勿論害をするに相違ない、此の如く致せば世の中の物は何事も取る可き者は無くなつて仕舞う。御飯でも一日に何の事はない九膳づゝ食るのを、一度に一杯づゝ増して食つたら何うか食傷です。併し食傷したが爲めに御飯を食べないと云ふ事は出來ない。故に只理屈を以て是れを空に取捨する事は論の得たるとではないと思ひます。

女は御承知の通り男子とは一躰の體格に於て違ふ者で、男は腹で重もに息をするが、女子は胸でする、是れをば或る人が論じてころせつを用ゐたが爲めに、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子は自然に胸で息をする様に成つたのであると言ひますが、おかしき事には、こるせつとを夢にも見た事のない日本婦人、日本の女子も亦た胸で息を成されて居ります。是れは他に種々の原因もありますが、一番解かり易い事が御婦人が一生の御役は懷妊して御子樣を御持ち成さるのが大役で有るから、其懷妊の時には男子のように腹にて息をするとは出來ないから、始めから胸で息をするやうに天性に出來居るとて御坐いませう。

こるせつとは腹を締めて容貌を宜くすると云ふので有りますが、私共の聞く所では腹を締めるのでなくして、胸を張らせて工合を善くするのが主意で有るとか云ふ事を聞ました。洋服が多くなりますればこるせつとを締むる人も多くなる、洋服を御召なさるに當つて、何卒其弊に陷らざらん事は私も呉々望ます、無暗に容貌を作る計りでは勿論害有つて益も有りますまいが、私は此機械を用ゆるに就いて只御注意を申上げるだけで、御廢しなさいとは御勸めは致しません、總て家庭の間に於て行はれる事で御坐いませんと、根がない衛生は行はれぬ者で、用ひ方を能くさへすれば、惡しきものでも善くある理で、善き者でも用ひ方一つで惡るくもなり害にもなる事單りこるせつと計りでは御坐いませんから、其の利を御知りになると共に其の害も御知りに成つて、其の用ひ方に御注意あられんとを願ひまするので御坐います。

甚だ短かう御坐りますか、是れで今日は御免を蒙ります。

本會錄事（自廿二年六月 至仝 年八月）

○六月例會　六月一日午後一時より華族女學校に於て例會を開く來會者八十餘名あり一時半より講演あり先づ石黒忠悳氏（婦人の衣服に就いて）述られ次に

中濱東一郎氏（衛生及身治躰）と云題にて講演ありたり右終りて役員協議會を開き全く散會せしは五時過ありき

○七月臨時會　華族女學校に於て臨時會開會の議兼て雑誌上御廣告致置候處同校移轉差閊候に付き神田小川町小川女子小學校に於て開會す當日は天氣晴朗暑氣酷にも關らず來會せし會員七十餘名幷に同校女生徒六十餘名の傍聴を許し爲めに盛會なり定時一時より色川國士氏（小學生徒の父母に告ぐ）との題にて躰育の必要を講ぜられ次に足立寛氏（海浴の説）との題にて海水の効能を辨ぜられ次に木寺安敦氏簡短に衛生の必要殊に本會を盛んにせんとするには會員を増加するにあり會員増加せんには會員諸姉の盡力の功による去れば今本會に四百名の會員ありとし各自己に半年間に一人の會員を募るとを注意せば本年中には八百人の會員となる八百人亦前の如くせば愈々本會は隆盛を來すは必せり嗚呼諸姉勤め勵み玉はん事を希望す云々と述られたり右終りしは四時半にして一同散會す

○六月以降本會に向け金品の御寄贈を辱ふせし方々に對し玆に紙上に於て聊か謝意を表す

金貳圓　原田時子君
金五十錢　片山鳳子君

（自明治廿二年二月廿一日至仝年八月卅一日）半年度會計表

收入之部

科目	金額
會費	一一〇円四〇〇
雑誌料	一〇円〇〇〇
終身會員出金	一〇円〇〇〇
寄附金	二円五〇〇
前半度殘金	六円六六九
合計	一三九円五六九

支出之部

科目	金額
講義室借料	五円〇〇〇
事務員給料	三〇円〇〇〇
筆記料	一四円〇〇〇
雑誌其他印刷費	四五円三九四
郵券及端書	一七円八三〇
雑誌配達費	七一〇
新聞廣告料	三円六四〇
事務員手當	一円〇〇〇
會費集金費	二円一五五
開場小使雇費	三円七五〇
筆墨紙費	一円〇九四
雑費	三円二二〇
四月懇親會不足金	九円一六三
合計	一三六円九五六

收支差引	金額
殘金	二円六一三

三井銀行預ケ金勘定

科目	金額
總高	八四円〇〇四
利金	一円二三六
合計	八五円二三〇

會計掛

婦人衛生會雜誌第八號附錄

○明治廿二年八月卅一日現在會員數

總計會員數參百五十名

本會設立
名の會員
回の講談
を社會に
或は毎月
際の事業
そ本會の
至らず常
り衛生の
の効益あ
、ならん
志を勸誘
に基礎脳
るべし、
のにあら
員諸君
の熱心

……候得共何分紙數に限り
り順次に掲載致候間左

編輯掛

……等の報知なき方多く
都合に候間御移動の際
まで御送附被下度爲替
候

事務掛

預り度取調の上直に郵
き御心付の事有之候は
書面にても御口上にて

立……
大日本婦人衛生會

中濱東一郎氏（婦人の美）

身治

會を

〇七

て雑

小川

暑氣

生徒

より

躰育の

題に

衛生の

増加

功に

己に

には

本會

事を

て一

〇六

に對

金

金

歯

一三九円五六九	六円六六九	二円五〇〇	一〇円〇〇〇	一〇円〇〇〇	二〇円四〇〇

一三六円九五六	九円一六三	三円二二〇	一円〇九四	三円七五〇	二円一五五	一円〇〇〇	三円六四〇	七一〇	一七円八三〇	四五円三九四	一四円〇〇〇	三〇円〇〇〇	五円〇〇〇

二円六一三

會計掛

八五円二三〇	一円二二六	八四円〇〇四

會員諸君に望む

本會設立以來次第に盛運に赴き今日にては無慮三百名の會員と一支會の設立を見るに至りしも唯毎月一回の講談會と一年四冊の雜誌にては到底實際の効益を社會に普及するに足らず勿論雜誌を增刊して隔月或は毎月の發行とし且つ衣食住育兒看病等に就て實際の事業を興し廣く公衆の幸福平和を增進せんとこそ本會の素志なりとは云へ會運猶微弱にして其機に至らず常に甚だ遺憾とする處なり、會員諸君は固より衛生の必要を知り給はん從つて婦人衛生會の事業の効益あることを認め其實行と普及とを希望せらるゝならん請ふ自今一層奮勵して各々出來得る丈け同志を勸誘し衆力を結合せられよさらば次第に勢運盛に基礎堅まり本會の事業を擴張する又難きにあらざるべし、社會の事總べて單身孤力を以て成就するものにあらず殊に本會は一個人の私有にあらずして會員諸君の衆合躰なり故に本會の事業は悉く會員諸君の熱心に依賴せざるべからざるなり

私立 大日本婦人衛生會

廣告

諸先生方よりの原稿澤山有之候得共何分紙數に限りあると故一時に掲載するを得ず順次に掲載致候間左樣御承知被下度候

編輯掛

會員諸君にして御轉居の際何等の報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際に必ず御報知被下度候

會費御不納の方は至急事務所まで御送附被下度爲替は總べて芝口郵便局宛に願上候

事務掛

雜誌不着之節は速に御報知に預り度取調の上直に郵送すべし

○本會の事業に付き事務に付き御心付の事有之候はゞ御遠慮なく御申越被下度御書面にても御口上にてもどちらにても宜敷く御座候

京橋區日吉町八番地

私立 大日本婦人衛生會

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

中濱東一郎氏（婦人の美）次に宇川盛三郎氏（衛生及身治休）と云題にて講演ありたり右終りて役員協議會を四
○七日
て雜
小川
暑氣
生徒
より
躰育の
題にて
衛生の
增加す
功にト
己に婦
には
本會に
事を
て
○
に

（自明治廿二年二月廿一日　至仝年八月卅一日）半年度會計表

收入之部

一一〇円四〇〇
一〇円〇〇〇
一〇円〇〇〇
二円五〇〇
六円六六九
一三九円五六九
五円〇〇〇
三〇円〇〇〇
一四円〇〇〇
四五円三九四
一七円八三〇
七一〇
三円六四〇
一円〇〇〇
二円一五五
三円七五〇
一円〇九四
三円二二〇
九円一六三
一三六円九五六
二円六一三厘
八四円〇〇四
一円二二六
八五円二三〇

會計掛

會員諸君に望む

本會設立以來次第に盛運に赴き今日にては無慮三百名の會員と一支會の設立を見るに至りしも唯毎月一回の講談會と一年四冊の雜誌にては到底實際の効益を社會に普及するに足らず勿論雜誌を增刊して隔月或は毎月の發行とし且つ衣食住育兒看病等に就て實際の事業を興し廣く公衆の幸福平和を增進せんとこそ本會の素志ありとは云へ會運猶微弱にして其機に至らず常に甚だ遺憾とする處なり、會員諸君は固より衛生の必要を知り給はん從つて婦人衛生會の事業の効益あることを認め其實行と普及とを希望せらるゝならん請ふ自今一層奮勵して各々出來得る丈け同志を勸誘し衆力を結合せられよさらば次第に勢運盛に基礎堅まり本會の事業を擴張する又難きにあらざるべし、社會の事總べて單身孤力を以て成就するものにあらず殊に本會は一個人の私有にあらずして會員諸君の衆合體あり故に本會の事業は悉く會員諸君の熱心に依賴せざるべからざるなり

私立 大日本婦人衛生會

廣告

諸先生方よりの原稿澤山有之候得共何分紙數に限りあると故一時に掲載するを得ず順次に掲載致候間左樣御承知被下度候

編輯掛

會員諸君にして御轉居の際何等の報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際に必ず御報知被下度候

會費御不納の方は至急事務所まで御送附被下度爲替は總べて芝口郵便局宛に願上候

事務掛

雜誌不着之節は速に御報知に預り度取調の上直に郵送すべし

○本會の事業に付き事務に付き御心付の事有之候はゞ御遠慮なく御申越被下度御書面にても御口上にてもどちらにても宜敷く御座候

京橋區日吉町八番地

私立 大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

前中央衛生會々長 從三位 細川潤次郎君題辭
衛生局長 從四位 長與專齋君序文
侍醫ドクトル 萩原三圭君校正
衛生局員醫師 渡 忠純君譯稿

衛生教育 婦嬰鑑 一名 母の教

上編 正價金三十錢 中編下編近刻

此書の原本ハ索遜國王陛下の侍醫ドクトル安門氏の著述にして。婦人小兒の道に志篤き萩原先生が三年前彼地に在りし時既に第二十七回の出板を見られしに今又此第二十九板を得られたるを以ても。需用の斷へざる稀有の良書たるを知るべし。書中說く所ハ婦人の婚姻に始まり。妊娠中の養生。出產前後の注意。赤兒の看護養育より。漸々生長して幼稚園に到るまでの間。身躰の衛生ハ勿論。精神教育の端緒をも正しく詳にせり。然れバ之を婦人必讀といふも可ならん乎。文章ハ平假名付にして讀やすく解しやすし。

男子も亦一讀せバ全家の都合に於て參考となるべし。萩原先生ハ筆執る暇の乏しきにも拘らず此書の世に擴がらんことを望まれしが渡先生の譯稿を供へて校正を乞ふと細川長與兩公の贊成とに由て深更剪燭の勞を取られしとなり

弊舖等發兌の榮を蒙りて爰に之を廣告す

馬喰町 島村利助
本郷春木町 島村支店
日本橋通 丸善

私立大日本婦人衛生會事務所
東京日吉町八番地女學雜誌社內
本會雜誌編纂委員 荻野ぎん子
鈴木まさ子

發行所 東京京橋區日吉町八番地
私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人 東京京橋區日吉町八番地 東京芝區源助町拾壹番地寄留 巖本善治

印刷人 森田豐

印刷所 東京京橋區西紺屋町廿六七番地秀英舍

遞信省認可